

特集

ともにつくる 産学官連携

庄内地域は、豊かな自然、歴史、文化、産業を有する一方、
人口減少、人材流出、災害の激甚化など、さまざまな課題に直面しています。

こうした課題に対応し、より良い社会を実現するためには、
地域の大学や教育機関・企業・行政が一つになり、それぞれの強みを掛け合わせる必要があります。

東北公益文科大学と酒田市が創る、これからの「私たちの街」。

人が育ち、新しいにぎわいや仕事が生まれる街へ。

ともに歩み、ともに挑戦する東北公益文科大学の取り組みを紹介します。

☎企画調整課企画調整係 ☎26-5704、東北公益文科大学法人企画課 ☎41-1119



Interview

東北公益文科大学 ― 新たなステージへ ―

この春に公立大学として新たな一步を踏み出した東北公益文科大学（以下、公益大）。公立化とともに新たに着任した伊藤守理事長にお話を伺いました。

Q1 改めて公益大とはどんな大学ですか？

今は複雑化する課題を解決するために、複数の専門分野に精通する人材が求められる時代です。日本で唯一の公益学部を持ち、経済・経営、政策、地域福祉、観光・まちづくり、メディア情報を横断的に学ぶことができ、時代とともに常に新しいことを取り入れてきました。公立化に伴い開設した国際学部や「庄内」産学官連携プラットフォームもその一環です。

学生自身が大学の魅力に

多くの学生が揃えばいろいろな人がいて、関心を持つ分野や強み、専門知識はみんな異なります。学問かもしれないし、スポーツかもしれない。でも、公益大での学びを通じて共通することは「自ら考え行動しさまざまな経験を積んでもらいたい」ということ。それぞれが分野の先頭に立って活躍し、あとに続く人がその背中を見て、自身もそうありたいと思える姿を見せてほしいです。ゆくゆくは、それが公益大の魅力となり、ブランドや価値の向上につながるはずです。

Q2 大学の果たす役割、大学の在り方とは？

大学の持つ一番の役割は、なんといっても研究と教育、そして社会貢献。社会をより良くするための手段や手法を追究し、次世代を担う学生を育て、社会に輩出することが我々の使命であり目的であると感じています。本学は、開学以来「大学まちづくり」を掲げ、自治体、企業、市民などとの連携に重きを置いてきました。新たなプラットフォームでも地域の皆さんがその成果を実感できるよう取り組んでいきます。

Q3 「庄内」産学官連携プラットフォームの展望は？

これまでも公益大では、地域の企業や団体、住民とともに課題解決に取り組んできました。松枯れ対策や海洋ごみ対策など、すでに取り組んでいるものについてはこれまでの経験を生かしながら発展させるなど、加速度的に進めます。

また、既存の取り組みの延長に留まらず、行政や産業界が抱える新たな課題に對して、今すでに何件かチャレンジしたいテーマがあるので、学内で検討を進め



公立大学法人 東北公益文科大学
伊藤 守 理事長

1954年、山形県大石田町生まれ。アキレス(株)代表取締役社長、代表取締役会長を歴任。2026年4月、公立大学法人 東北公益文科大学理事長に就任。工学博士。

ているところです。私自身も長年、県外の民間企業で培ってきた経験や人脈を生かして、先頭に立って取り組みたいと思っています。

大学は人や資源が集まる場所

本学は1,000人の学生と40人を超える教員、外部講師、職員、さらには自治体や企業、高等教育機関など、地域内外からさまざまな人材や資源が集まる場所です。一人では解決が難しいことでも、各分野の専門家がアイデアを出し合い、連携できれば解決の糸口が見つかるのではないのでしょうか。ぜひ、一緒に取り組みたいと思います。

産学連携 — 商品開発プロジェクト —

8月8日(土)に限定販売された「イカ焼きせんべい」は、公益大の学生と酒田米菓(株)、(株)ト一屋、(株)主婦の店鶴岡店で共同開発されたものです。この商品開発プロジェクトは公益大の地域産業活性化研究所※1との共同研究、プロジェクト型応用演習※2の一環として行われ、学生23人がサプライチェーン（原材料の調達、製造、店頭に並ぶまでの一連の流れ）を理解するために、企業の担当者と商品の味やラベルの考案、動画制作などの企画・立案などに取り組みました。



公益大
経済・経営コース
広崎心教授

Q プロジェクトで意識したことは？

本当に「いいモノ」を作ることを意識しています。より良い商品をこの庄内エリアで作り、全国で販売・展開し、得られた利益が地域に還元され、新しい商品開発につながる地産「外」消の好循環を生み出したいです。そのための企画力、マネジメント力を学生が身に付けることができれば、取り組んでいます。

Q 今後の展望は？

ト一屋さんと主婦の店鶴岡店さんはともにCGCグループ※3に加盟しているので、県内はもちろん、いずれは県外まで販路を拡大したいです。これはプロジェクトに参画している企業にとってのメリットにもなります。

商品の企画・販売の仕事に携わりたいと思い、この演習に参加しました。企業の皆さんと直接対話し、普段は目にするのでないモノづくりの裏側の面白さや大変さを間近で見るなど、貴重な体験になりました。

せんべい同好会会長・
公益学部3年 五十嵐舞衣さん



▲公益学部2年
久保田樹那さん

▲公益学部1年
土門夏々花さん



▲イカ焼きせんべい報道発表の様子

が、大学としては公益大を広く知ってもらいたい機会になります。スーパーで商品を手に取れば、大学の名前とロゴを目にしますよね。ぜひ多くの人に関心を持ってもらいたいです。

Q 大学として本プロジェクトを通じて目指すところは？

本プロジェクトを通じて庄内エリアの企業を知り、就職してもらうことが一番のゴールですが、一度は首都圏に就職してもいいと思っています。その上で、学生には常々「帰ってくるんだよ」と言い含めています(笑)。

経験を積んで戻って来る形があってもいいですね。

もう一つ思いがけない効果があつて、これまで関わった企業の社長さんから、社員の研修としても非常に役立ったと言われたことがあります。我々と取り組むことで、あらゆる視点での新しい気付きや業務の改善などにつながることもありますので、ぜひ大学を有効活用してください。最後に宣伝ですが、次の商品(せんべい)もいいものができそうです。発表できるまでお待ちください。

※1 地域産業活性化研究所 庄内地域や東北地域における地域活性化・産業効率化に関する経営学的研究をテーマとする公益大の研究機関(所長:広崎心教授)。
※2 プロジェクト型応用演習 座学で学んだ理論や知識を地域や社会で実践し、洞察力や考察力、行動力、課題解決に必要な力を身に付けることを目的とした演習科目。
※3 CGCグループ 全国の中堅・中小スーパーマーケットが加盟し、商品の開発や調達、物流、販売促進、教育などを共同で行う組織。県内では㈱おーばんも加盟している。



酒田米菓(株)

大学と組む メリットとは？

若い人の発想を取り入れた新商品開発や認知拡大に加え、大学生との直接の接点による地元「人財」の確保が望めます。さらに大学の関係網を生かした他企業との共創など、事業成長にも貢献していると考えます。



酒田米菓(株)
佐藤 孝典
代表取締役社長

今回の「イカ焼きせんべい」の商品開発担当としてこのプロジェクトに関わりました。一企業の社員と公益大の卒業生と、どちらの立場もわかるので、販売店のプロの意見と大学生の自由で斬新な意見の両方を聞きながら企画を進めました。特に決め手となる味に関しては、どちらの意見もなかなかシビアでしたが、なじみのある「イカ焼き」の味を再現するために何度

も改良を重ねた結果、満足いく商品が完成しました。
Q このプロジェクトを通して、在学生に伝えたいことは？
最初は公務員を目指していましたが、公益大在学中にインターンシップ先の民間企業でグッズ製作の企画や販売に携わり、商品が売れた時の達成感が忘れられずこの道に進みました。そのあと、たくさんのお会いやつながりがあって、今の会社に勤めています。

Q プロジェクトには どのように関わった？



酒田米菓(株)
企画部
山下 紗枝 さん

地域産業活性化研究所の学外研究員として、さまざまな活動に参加しています。弊社は店舗のイメージを持たれがちですが、商品の仕入れや開発、製造など、さまざまな業務があります。このプロジェクトは、店舗だけを見ても分からない仕事の魅力を大学生の皆さんに知ってもらう貴重な機会です。また地域に大学があることで若者と企業が

といちや (株)ト一屋



(株)ト一屋
荒木 順三
副社長

つながり、互いに学びながら地域の未来とともに考えることも大きなメリットです。大学生ならではの自由な発想や率直な意見が加わり、新しい価値が生まれました。私たちも多くの気付きがあり、地域の未来につながる意義ある取り組みです。

主婦の店 鶴岡店 (株)主婦の店 鶴岡店



(株)主婦の店 鶴岡店
大川 奈津子
代表取締役社長

以前から産学連携に取り組んでいたト一屋さまよりこのプロジェクトの内容を伺い、興味があることを伝えたとこ「次回から一緒にどうですか？」と声を掛けていただきました。このプロジェクトを通して、若い世代の発想とニーズを知るきっかけになり、我々も刺激をいただいております。

今回のように大学と連携して取り組むことで、社員と学生が一緒に作り上げる喜びや苦勞を体感する良い機会になったと思います。

学生の新しい創造力はこの地域にある企業同士をつなげ、さらなる庄内エリアの活性化につながるものと期待しています。

なぜ産学官が連携するのか——「庄内」産学官連携プラットフォームとは——

全国には200以上の大学が関わるプラットフォームがありますが、「庄内」産学官連携プラットフォームには、庄内エリアのために「公益大と一緒にだからできる」ことがたくさん盛り込まれています。

令和8年7月に「庄内」産学官連携プラットフォーム（以下、本プラットフォーム）が設立されました。公益大が核となり、行政による庄内エリアの課題整理やエリア内の商工団体組織との連携調整を通じて、各企業と連携していく仕組みです。

本プラットフォームでは
①地域課題への取り組み
②地域に必要な人材の育成
③学生の地元定着
を通じて庄内エリアを大きく発展させることを最終的な目的としています。また、学生自身がこの地をもっと知り、庄内エリアへの就職につながることも期待されます。

今後の活動などは
公益大ホームページを
参照してください！



本プラットフォームの特徴

- ・ 学生が庄内エリアをフィールドに研究できる環境
- ・ 小規模な大学ならではの教員間の柔軟な連携やスピード感のある研究活動が可能な体制
- ・ 庄内エリアに立地する複数の高等教育機関が連携する土壌の形成
- ・ 全国で唯一「公益学」を学べる大学の学際的な取り組みと幅広い分野の教員の活用



東北公益文科大学公立化記念式典が行われました

7月8日に行われた記念式典には、庄内2市3町の首長や山形県副知事、庄内総合支庁長などが出席し、公益大の開学25周年を祝いました。また「庄内」産学官連携プラットフォームの設立宣言の他、記念講演が行われ、庄内エリアの未来にそれぞれの思いを乗せる場となりました。

【本プラットフォーム 構成団体】山形県、酒田市、鶴岡市、三川町、庄内町、遊佐町の行政機関／酒田商工会議所などの産業団体／公益大や山形大学農学部などの庄内エリアの高等教育機関／庄内エリアの高等学校長会

公益大とともに

この特集では、公益大と企業が連携した取り組みや関係者へのインタビューを通して公益大の魅力や役割、展望について紹介しました。若者の定着、産業の活性化など、地域課題の解決には大学と地域の連携が欠かせません。学生をはじめ、公益大に集まるさまざまな人材や資源、知見が地域の企業と結び付くことで、共同研究や商品開発、就職などさらなる相乗効果が期待されます。この春、公益大は公立大学として新たなフェーズに突入しました。より良い社会の実現に向けて産業界、高等教育機関、行政機関などとの連携を一層強化する動きから目が離せません。

皆様のご意見をお寄せください

【公開期間】
9月20日(日)まで



公益学部

各種講座のお知らせ

公益大では、一般の方向けにも各種講座を開講しています。大人の学びの場として、ぜひ活用してください。

東北公益文科大学公開講座^{フォーラム}FORUM21

- 日** 9月25日(金)午後3時30分～5時10分 **所** 公益研修センター **定** 50人
内 講演「ホルムズ海峡を読む ―海峡封鎖と国際ルール―」
講 海上自衛隊 大地健氏、同大学 樋口恵佳准教授 **費** 無料
申 9月23日(祝)まで右記二次元コードから **問** 同大学地域共創センター ☎41-1115



▲申し込み
フォーム

公立化・開学25周年・国際学部新設記念 連続講座

「地域と大学の新しい関係」をメインテーマに多面的かつ実践的なテーマを展開する講座です。
 詳しくは、公益大ホームページを参照してください。

開催日・場所	テーマ	講師など
10月6日(火) 公益ホール	ローカル × グローバルと挑戦 ―庄内から世界へ―	河野リエ氏 (RAHA KENYA代表) 佐藤 南帆氏 (モヨ・チルドレン・センター代表)
10月14日(水) 公益ホール	地域と大学 ―実践がつくる大学の価値―(仮)	藻谷 浩介氏 (日本総合研究所)
11月20日(金) 酒田キャンパス	起業 × 大学 ―起業マインド育成講座―(仮)	小林 剛也氏 (起業研究所客員研究員)
11月28日(土) 鶴岡キャンパス	デジタル時代における教育について 「AIの時代に外国語学習は必要か?」	菅原 克也氏 (東京大学・武蔵野大学名誉教授)



▲10月6日(火)分 連続講座写真
アフリカ布を活用した
アパレル事業を展開



▲連続講座の
お知らせは
こちらから



▲申し込み
フォーム

- 費** 無料 **申** 開催日の5日前までに右記二次元コードから
問 同大学法人企画課 ☎41-1119、☎41-1137

国際学部

English Café ―世界に羽ばたく大学として―

公益大には大学生だけでなく高校生同士の学びや交流もあります。その一つが English Café。大学生や教員、本市在住の英語ネイティブスピーカーと一緒に、より実践的で日常的な英会話を学べるため、多くの高校生が訪れています。

開催日のお知らせ

- 日** 毎月第2火曜日午後7時～8時(1月～3月は開催予定なし)
所 公益大 SALC^{サルク}
 (Self-Access Learning Center 言語自主学习センター)
費 無料
申 開催日当日の午後5時までに右記二次元コードから
問 同大学教務学生課 ☎41-1116、
 ✉salc@koeki-u.ac.jp



▲申し込み
フォーム



▲令和8年4月に新しく整備された
SALC



▲English Caféの様子。ここでの経験を
生かし、留学などを考える高校生
もいるとか

English Caféでは英語での会話を
楽しみたい高校生なら、英語
力に関係なく、どなたでも大歓
迎です。日常会話の練習だけで
なく、カードゲームや季節ごとの
イベントも開催しているので、誘
い合って気軽に参加
してください!

公益大 国際学部
フェック・エドモンド
准教授



参加者の声

高校生の頃からEnglish Caféに参加
しています。SALCは、英会話のスキル向
上だけでなく国際的なつながりや知見
が広がる場所です!

国際教養コース 3年 加藤弘絵さん